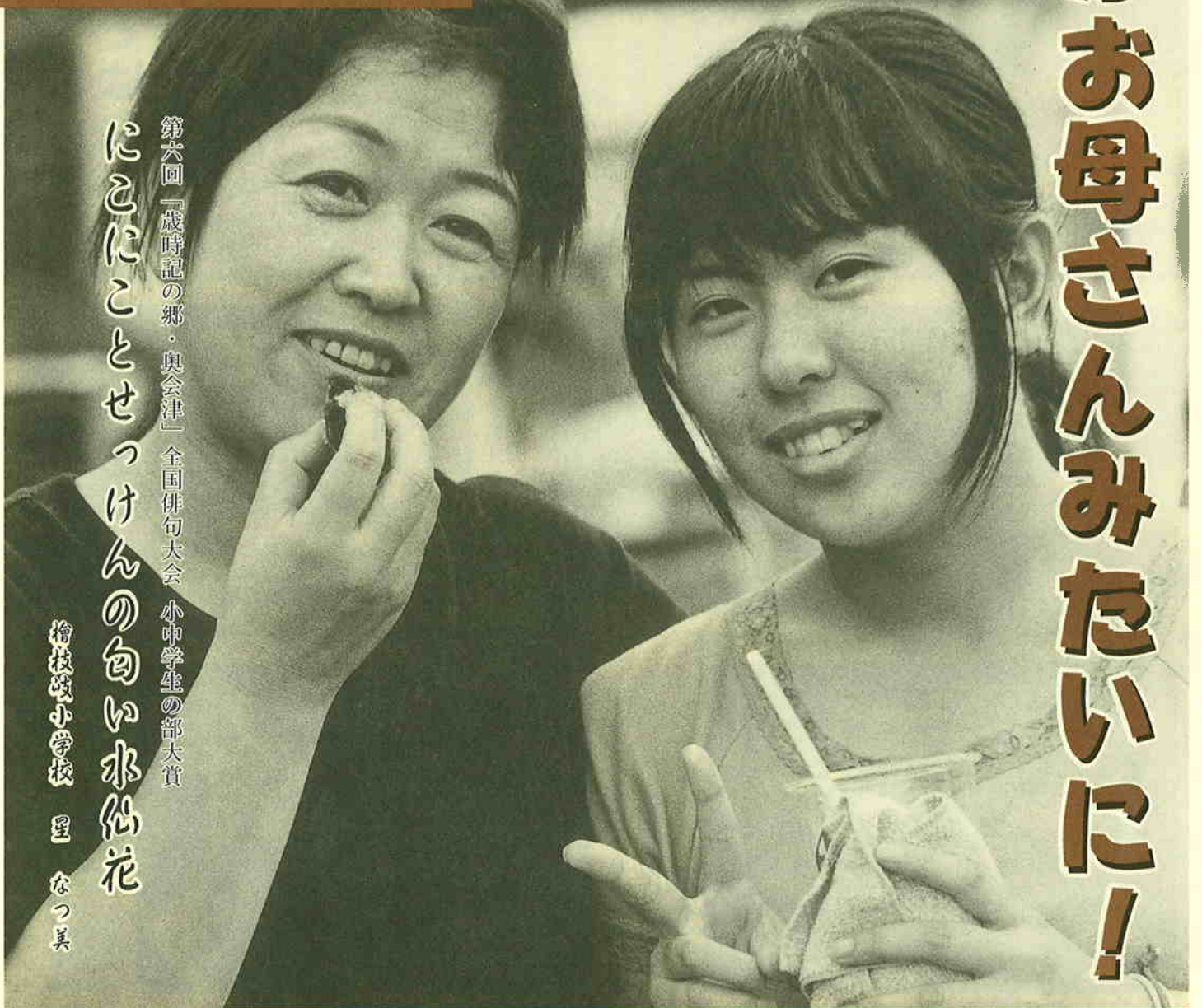


奥会津 だより

2001年秋
第8号

いつかお母さんみたいに!



第六回「歳時記の郷・奥会津」全国俳句大会 小中學生の部大賞
にこにこことせつけんの匂い水仙花

増枝岐小学校 星 なつ美

「只見川電源流域 振興協議会の歴史」③

第1期事業の中で、奥会津はひとつ、共に歩むという姿勢と努力が実を結び、奥会津のイメージが生まれました。本号では平成12年度から始まった第2期事業の中心について少し触れます。テーマは「環境の保全と交流」です。まず大きな仕事として、普段私たちがごく当たり前と思っている多くの自然や環境を再発見するプロジェクトがあります。「宝物って何?」シリーズをご覧ください。日本でもここだけという貴重な自然も発見されています。以前第5号で紹介した雪崩地形もそのひとつです。これらの自然を再発見する作業は、平成14年度まで続きます。どんな宝物があったのか、成果を地域の子どもたち、おとなの皆さんに知っていただき、皆さんと一緒に宝物を大切にしていきたいと思います。

もうひとつは、奥会津地域の山村景観をみんなで作った、保全したりする運動です。住んでいる人は意外と気付きませんが、これほど広い地域で、山里の風景をきちんと残しているのは日本でもここ奥会津だけだとも言われているのです。では、どのようにすればこれらの風景・景観を残せるのか、約束事を、景観ガイドラインとして取りまとめました。本号で一部を紹介しています。続きは次号。

山村は「過疎」ではない。

「過疎」という言葉が最近、狭義の人口減少地域という意味を離れ、疲弊し衰退の一路を辿っているという意味を含んできているようです。

しかし、山村は本当にそうした疲弊した「過疎」なのでしょうか。今の季節、奥会津を車で走ると、伊南川・只見川沿い、その支流にいたるすべての田んぼが黄金色にその姿をかえ、まさに収穫の時期を迎えています。そしてそんな見事な景観を求め、全国より多くの俳人や写真愛好家たちが、ここ奥会津を訪れています。こんな豊かな資源があり食料豊富な地域を、「過疎」という言葉で表現するのは相応しくないと感じます。

山菜やキノコ、イワナやヤマメなどをとり、食べ方や保存方法など、生活の知恵を生かすことが求められ、代々受け継がれています。森や川の生き物と共生する術も伝わっています。

ところで今、学校教育などあらゆる分野で山村の生活が取り上げられ、学習され見直されています。都市の生活と比べると一見不便のように思われる山村の生活が、「大きな価値のあるもの」として考えられ始めています。なぜでしょうか。今までお金と物に価値観をおき便利さだけを追求してきた都市が、心の豊かさを失い「心の過疎」が生じてきたためではないでしょうか。

今、国では分権改革が進められています。これは、自分たちの地域に誇りをもって、「自分たちの地域は、自分たちで作りますよ。」という運動です。われわれ山村に住むものは、過疎や不便などの言葉に惑わされず、都市にはない豊かさを堂々と自慢していききたいものです。心の豊かさに価値観が移った現代、田舎よりむしろ都市のほうが、生活・こころの「過疎」かもしれません。

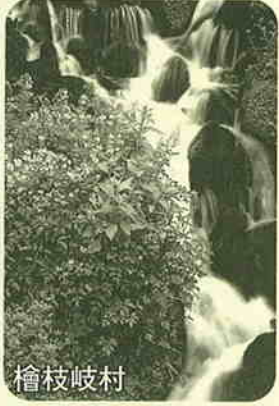
比べて山村の生活は、自らが種をまき、育て、食しています。

比べて山村の生活は、自らが種をまき、育て、食しています。

景観ガイドライン

わたしたちは、日本でも数少ないすばらしい景観の中に暮らしています。

奥会津の住民は、豊かな自然と共生しながら、自然を守り、季節の移り変わりが生み出す恵みの中で暮らしてきました。そうした暮らしぶりを表現する風景が「奥会津にふさわしい美しい景観」です。



具体的には
一、地域住民の暮らしの源である自然の営みや動植物の生息環境について配慮する。



一、自然が織りなす色彩や形を重視し、それを損なうような色使いや建造物の配置を避ける。



一、奥会津の住民の生活様式に関わる、家屋・田畑・文化的資源・ランドマーク（住民が生活の中で目印にしている大木やお堂、山など）等を、景観創造の大切な要素とする。

そして、奥会津に暮らす皆さん一人一人が、行政担当者も全ての企業の方々も、常に周囲の景観に気づかい行動するように心がけましょう！



県や国への公共事業にも、景観ガイドラインへの配慮を求めていきたいと思います。

宝物って何？

今回は、皆さんの集落のごく身近な森に棲んでいる「奥会津の森の住人たち」がテーマです。奥会津の人々は自分の集落に住む人の顔と名前は誰でも知っていて、道端で出会っても必ずあいさつを交すし、どこの家で赤ちゃんと生まれるかも知っていますね。それはとてもすがすがしいことですが、集落の中やその周りの森に住んでいる多くの生き物たちのことはどうでしょう？

身近な森の中での鳥たちの子育て紹介

今年の6月に奥会津9か町村において、集落近くの歩きやすい森を対象として野鳥の調査をしました。この時期は鳥たちにとって最も大切な繁殖の時期です。

この調査で確認された野鳥は全部で57種類。そのうち鳥たちの求愛サインである囀りなどから、38種類の鳥が皆さんのごく身近な森で子育てをしていることがわかりました。

それでは9か町村のほとんどの調査地で囀りが確認された鳥をいくつか紹介してみましよう。皆さんはこのうち何種類の鳥の名前と姿をご存知ですか？

キジバト、ウグイス、メジロ、ホオジロなどは一年中奥会津の森で暮らしている鳥ですし、姿を見ることも多い鳥ですから皆さんもよくご存知でしょう。では、ツツドリ、サンショウウガイ、キビタキ、オオルリはいかがですか？彼らは、春から夏にかけて毎年子育てをし

に、はるばる東南アジアなどから奥会津に渡ってくる鳥たちです。

それでは、身近な森の住人である彼らがどのような子育てをしているか知っていますか？

この中に1種類だけ、自分では巣づくりや子育てをせず、仮親を見つけてその巣に自分の卵を生んでしまいう鳥がいます。それはツツドリです。このような子育ての方法を托卵といいます。ツツドリはムシクイ類のほか、ウグイス、メジロ、キビタキ、オオルリなどの巣にも托卵します。ツツドリの姿はなかなか見られませんが、竹筒の切り口を手のひらでたたくようなポポ、ポポという鳴き声に聞き覚えのある方も多いのではないのでしょうか？

ツツドリのメスは仮親の留守中に巣から卵を1個抜き取り、代わりに自分の卵を1個産み込みます。ツツドリのヒナは巣内の他の卵やヒナを背中を使って自力で外に放り出し、巣を占領

して仮親にじつくりと育てられます。「そんな子育ては許せない！」と怒りを覚える方がいるかも知れませんが、仮親たちの中には托卵に気付いて産み込まれた卵を選び出して巣の外に放り出し、我が子を守る親もいるようです。

今年も、奥会津の身近な森のあちこちで、自分の子孫の生き残りをかけた鳥たちの壮絶なバトルが繰り広げられていたのです。そして、何羽の鳥たちが巣立ち、遠い南の森を目指して飛び立っていったのでしょうか。来年もまた、森の中からポポ、ポポという鳴き声が聞こえてきたら、平和な森で鳥たちの戦いが始まります。

(株)ブレック研究所 松井 孝子



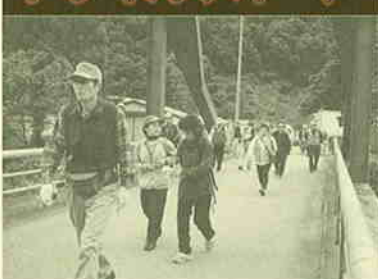
第6回 全国俳句大会

第六回歳時記の郷奥会津 全国俳句大会



9月1日・2日と館岩村で行われた第6回「歳時記の郷・奥会津全国俳句大会」は、初秋の青空の下、吟行しながら会場入りする方々も多く、約300人の参加者が集いました。小中学生の部では、見事大賞に檜枝岐小の星なつ美さん、準賞に柳津小の長谷川裕美さん、金山一中の栗城麻衣さんがそれぞれ選ばれました。

尾瀬街道 トレイルウォーク



9月29日〜10月1日の3日間、尾瀬街道の自然を楽しみながら地元住民との交流を深めるウォーキングツアーが行われました。1日は柳津周辺。2日は金山町湯倉温泉から松坂峠を越えて只見町へ。3日は尾瀬沼山峠からアルザ尾瀬の郷へ。参加者それぞれの笑顔が印象的でした。

トピックス

奥会津世話人 登場！

三島町 写団道奥21

小島 純さん



写真を通して奥会津の良さを伝えていきたいと思っ

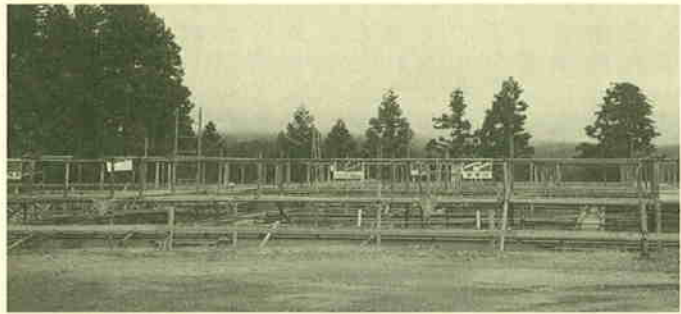
います。竹内敏信さんと一緒に奥会津を撮影して回って、改めて「いいなあ！」と再確認しました。奥会津に生きる人たちの表情を捉えるという作業はライフワークです。人物写真は生涯モノクロにこだわって撮り続けたい。「奥会津だより」の表紙を撮らせていただいてますが、世代の異なる家族や友人たちが仲良く元気に暮らしている姿こそが、奥会津の豊かさであり、魅力なんだと訴えたいですね。共感を呼べる「ホッ！」とする写真で「奥会津」を伝えられたいと思っています。

写団道奥21の今後の活動は、まずは地道な奥会津の写真展の開催です。だれもが自由に出入りして鑑賞できる見せ方を、みんなで研究していきます。写真の巡回展も視野に入れて、写真を撮る人のネットワークも図りたい。

13年度ハード事業がすすんでいます

尾瀬街道三島宿

(三島町)



R252に面した案内導入のための立ち寄り拠点となります。霧の向こうには素晴らしい眺望が広がっています。



青少年旅行村バンガロー

(只見町)



いこいの森キャンプ場に建設中のバンガローは、新たな交流拠点となります。町を見下ろす高台の森の静かな佇まいです。



いべんと告知板

第5回 奥会津エコハイク

深まる秋、南郷村周辺を会場に日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト(HAT)田部井淳子代表)のメンバーと共に第5回エコハイクを行います。

「奥会津エコハイク」は、奥会津の山々に登り、自然体験・文化体験を楽しみ、環境を大切にしながらか交流を図るものです。

日程

● 11月3日(土)

南郷村文化祭に参加、紅葉の山道を散策します。夕方からは「ホテル南郷」の温泉入浴、南郷の語り部・五十嵐千佐美さんによる昔語りを聞きます。

● 11月4日(日)

地元の参加者と一緒に宮床湿原を散策し、伝上山登山を楽しみます。昼食を食べながら参加者やHATメンバーとの交流会を行います。

【参加申込み・問合せ先】

日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト (HAT)

担当 沢田

☎ 03-3828-6872

(平日13~17時)

☎ 03-3828-6873

○ 地元参加希望者は南郷村企画観光課 (☎0241-72

12900)へお問い合わせください。

第6回 奥会津「写真文化の郷」フォトコンテスト

「写真文化の郷」奥会津を素材にした傑作写真を募集します。

テーマ……奥会津9ヶ町村内で撮影した作品。

出品資格……未発表、他のコンテストに出品予定のない、写真が類似しないもの。

締切……12月25日(消印有効)

コンテスト内容

● 単作品の部門

● グループ作品の部門

発表……2002年1月中旬

発表写真展と表彰式……2002年2月24日(日)／只見町・季の郷 湯里

写真イベント……2月24日(日)26日(火) 奥会津「雪の撮影ツアー」と「写真教室」を開催予定。

審査員……審査委員長：竹内敏信 (JPS理事)、上原治雄 (JPS会員)、堀江克彦 (JPS会員)、榎原透雄 (JPS会員)、他町村長

詳しい内容については奥会津写真文化の郷事務局までお問い合わせ下さい。

東京都南麻布1-17-1-302

(株)フレムマン・フォトテ

クノ内

☎・FAX 03-3452-1327 (担当：細野・服部)

インターネット情報

<http://www.okuainu.com>

● 竹内敏信氏の写真作品「奥会津秀麗」を貸し出します。

奥会津の自然の美しさを全国にPRするという目的で、「奥会津秀麗」の竹内敏信氏の写真作品を貸し出します。

ご希望の方は只見川電源流域振興協議会事務局 (☎0241-82-5220)宛ご連絡ください。

● 写真は芸術作品です。展示は、ギャラリーまたはそれに準ずる照明設備の整った場所で行うこと。

● 写真作品の貸し出しは無料ですが、会場との往復運賃および会場での経費は借入者が負担すること。

※その他、展示の際にいくつかの条件があります。お問い合わせください。

奥会津そば祭り

場所	日時	料金
柳津町 大成沢 博士山麓 多目的広場	10月21日(日) 10:00~15:00	大人1,800円 (中学生以上) 小人1,000円 ※600名限定
館岩村 会津高原高杖スキー場 スキーセンター内・スペースA	10月27日(土) 第1部10:30~12:00 第2部13:30~15:00	前売 大人・小人共 2,000円 当日 大人・小人共 2,200円 ※200名限定
昭和村 しらかば会館	10月28日(日) 12:00~14:30	大人3,000円 (中学生以上) 小人2,000円 ※完全予約制/120名限定
只見町 青少年旅行村内 そば道場	11月10日(土) 10:30~ (110名限定) 13:20~ (110名限定)	大人3,000円 (中学生以上) 小人2,000円
檜枝岐 尾瀬の郷交流センター	11月10日(土) 17:00~19:00	大人3,500円 (高校生以上) 小人2,500円 ※予約制/500名限定
三島町 西方ふるさとセンター	11月24日(土) (予定) 12:00~	大人2,500円 小人2,000円 ※予約制/60名限定
金山町 こぶし館	11月25日(日) 第1部10:30~12:30 第2部13:30~15:30	大人3,000円 小人2,000円 ※1部,2部とも52名限定